

令和3年度 第7回豊能町教育委員会会議（10月定例会）会議録

日 時： 令和3年10月29日（金） 午後3時00分開会

場 所： 豊能町役場 2階大会議室

出席者： 教育長	森田 雅彦
教育長職務代理者	宮崎 純光
教育委員	川村 新
教育委員	坂口 敏子
教育委員	富永 彰一
教育委員	馬渡 秀徳
事務局：こども未来部長	八木 一史
こども未来部理事兼教育総務課長	入江 太志
義務教育課長	吉澤 亘
こども育成課長	竹内 弘明
生涯学習課長	寺倉 義浩
義務教育課主幹兼保幼小中一貫教育推進室長	峯 亜希子
教育総務課主幹兼保幼小中再編整備室長	千歳 あや乃
教育総務課課長補佐	住原 聡

傍聴者：0名

会議次第

○各課・室からの報告

開会：午後3時00分

【議長】

開会あいさつ

【議長】

会議を始めます前に10月22日付で退任されました太田佳子委員の後任として、馬渡秀徳様が9月議会におきまして選任同意され、10月23日付で教育委員にご就任をいただきました。

馬渡委員からご挨拶をいただきます前に、馬渡委員の略歴につきまして、事務局からご紹介をさせていただきます。

【こども未来部長】

馬渡委員の略歴紹介

【議長】

それでは、馬渡委員からご挨拶をいただきたいと思います。

【馬渡委員】

あいさつ

【議長】

それでは、会議をはじめます。

ただ今の出席委員は5名です。過半数に達しておりますので、ただいまから令和3年度第7回豊能町教育委員会議10月定例会を開会いたします。

会議録の署名人を宮崎職務代理にお願いいたします。

【議長】

本日は特に議題がございませんので、前回会議以降の各課等の報告をさせていただきます。

【こども未来部長】

- ・町の新型コロナウイルス対策について
- ・学校再編保幼小中一貫教育の進捗状況について
- ・子ども子育て審議会について
- ・生涯学習施設の施設改修に係る臨時休館について
- ・令和4年度予算要求の概要について

【こども未来部理事（教育総務課長）】

- ・令和4年度豊能地区の公立学校教員採用選考テストの最終結果について
- ・中学校給食試食会について

【保幼小中再編整備室長】

- ・東ときわ台小学校屋上防水工事について

【義務教育課長】

- ・学校行事関係について

【こども育成課長】

- ・児童虐待防止オレンジキャンペーン講演会について
- ・所園関係行事について
- ・子ども子育て審議会について

【生涯学習課長】

- ・スポーツセンターシートスの屋上防水改修工について
- ・スポーツセンターシートスの指定管理者選定委員会について
- ・ユーベルホールの行事について

【議長】

ご意見、ご質問等はいかがでしょうか。

【委員】

事務局から報告がありました町バス廃止について、具体的に今まで使っていた行事等に町バスが使えなくなるという具体的な事例はどれどれあるか教えてください。

【こども未来部長】

行財政改革2019というのがあり、その中で町バス廃止というのが出ております。それに対し、反対といえますか、教育委員会としては存続させてほしいと言っていました。なかなか難しいという結論です。今年の7月には、各小中学校の町バスの利用状況の調査をしております。

その結果、一番多いのは東能勢中学校の30回、町内の小中学校すべてでは年間63回使っております。

公共交通機関で代替できるかどうかも聞きましたが、代替できないとの回答が約92%ございました。

その内容的については、一番多い東能勢中学校では、クラブ活動におけるバスの利用でありました。

また、北摂信愛園との交流会や、校外学習にも利用しております。

小学校につきましても校外学習等でよく利用しております。中学校については、吉中と東能勢中の交流での利用回数が多いという結果でございます。

【委員】

東と西が小中一貫校、一つずつになった場合、より交流を深めた方が良いと思う。そういう意味で、現在、クラブがメインで使われているみたいですが、東西交流の移動手段として使っていくべきなので、お金がないといわれたら仕方ないと思うが、何とか町

バスが存続できるようにしてほしい。

もう一点、ひかり幼稚園のバスは大丈夫なのですか。

【こども未来部長】

まず、両中学校や小学校の交流ですが、授業やクラブでの交流も非常に多いので、その代替措置について、教育委員会で大きな車を確保することが一番良いと思いますが、それも難しいようなら観光バスやマイクロバスの単価契約をする必要も生じると検討しているところでございます。

ひかり幼稚園のバスについては廃止ではございません。また、そのバスについては吉川保育所やふたば園も使っております。

【委員】

事務局から報告がありました今年の採用の話ですが、若い方がいっぱい入ってくれてうれしいと思う。逆に、最近、先生の「心の病」等で辞めてしまう先生もおられるかなと思うので、退職率とか年齢とか、その辺も若返ってないかなというのが少し心配です。その辺の現状を把握しているなら、その辺もまとめてどこかで報告いただけたらありがたい。

【こども未来部理事（教育総務課長）】

その件については、採用して間なしに退職する。例えば、4、5年以内に退職しているというような調査はあったような記憶はしておりますが、4、5年以内に退職しているとか、そういう教員が非常に多い場合は少し問題視することはあると思います。採用時には面接もしますので、面接でそれが見抜けるのか見抜けないかというところが難しいかもしれませんが、その辺の退職者の調べがあまりないのが実情です。もしそういう傾向が顕著であれば、人事協の中で色々話題として取り上げていくこともあると思います。採用がどうだったとか、後のフォローがどうなのかというところは出てくると思います。

今のところ、はっきりとお示しできるのが見当たりません。

【委員】

データがないということで、今後調べていただけたら良いのですが、小中一貫にしたことによって、先生側のメリットとしてそういう事例が減ってきてもうれしいという思いがあるので、データが集まるのなら、何か今からでも集めて、小中一貫にした前後で先生の体調面とか心理面とかその辺の評価ができると思います。

【こども未来部理事（教育総務課長）】

学校再編ということで西は3小学校が1校になるので、職員は人数が多いとやはり相談相手といいますか、複数の学級が維持できるようにということで西のほうでは、まだ2クラスが維持できるとは思っているのですが、やはり学年1人になると相談相手がいないとかというのはよく聞かれます。東のほうは、そういう状況になっております。学校に学年担任が1人しかいないというのは複数学年でカバーするところはありませんが、課題であると思っておりますので、そういう面では学校規模が大きくなれば、一定相談する人もそのあたりの対応も手厚くなると思っているのが実情です。

【議長】

事務局に聞きます。

昨年度の豊能町の教職員の採用、小中事務職含めてどのような状況であったか。そして、今年度の予定としてはどうかというあたりを少し委員の皆さんに紹介してください。

【こども未来部理事（教育総務課長）】

本町では今年度、事務局は1名採用、小学校が2名、中学校2名採用をしております。

中学校については教科が社会と英語1名ずつ採用しております。

今回採用合格者総数をお示ししましたが、来年1月に割り当てがはっきりしますが、今のところ小学校で2名程度、中学校でも2名程度採用できるよう協議しております。

本町も減少傾向でありますので、一定ゼロということは新陳代謝というか、一定数を採用していこうと考えております。毎年何名かは採用していきたいと思っております。ただ、再編の時は西の3小学校が一つになるので、調整は出てくると思いますが、その中でも採用は一定数採用していきたいと思っております。

【議長】

私から少し補足をさせていただきます。

令和8年度に西地区につきましては、小学校3校が統合されて中学校と一つになります。1年生から9年生の義務教育学校になりますので、中学校の先生の数が変わりませんが、小学校の先生が12、3名過員になります。過員になった先生については研修交流という形で3市、あるいは能勢町で研修をしていただく。そして本町に戻っていただくことを前提に6年なり9年間、他の市町で勉強してくるという形を取っていきたいと思っております。豊能郡では、能勢町も1校になって、豊能町も2校になって学校の数が減ります。小中学校で3校しかなくなるので、能勢町と協議を行っていますが、同じ豊能郡の中の3校で交流をこれからどんどん進め、それぞれが義務教育学校になっても豊能郡の中で異動等もやっぺいこうと、お互いに協力、連携して進めているところです。これは先生だけではなく、管理職につきましても今、校長と教頭がそれぞれ6人おりま

す。それが2校になりますので、校長は6人から2人になります。その辺の対応についても次年度から豊能地区内で調整をしていく必要がありますので、事務局間で水面下で色々な調整をしております。

また、年度末になりましたらその辺の調整のことにつきまして、お伝えさせていただきたいと思います。

【委員】

そういう調整の中でやはり少「心の病」を心配しています。小中一貫への変化の中で結構重い仕事がかかわってくる時期というのがあると思うので、その辺で少し疲れてしまって「リタイアさせて」というようなことを心配しているので、人事交流していくのは結構ですけれども、その若い段階で、そういうことがあったら少しカウントをしておいてほしいなと思います。

【義務教育課長】

今のところ先生方は、小中一貫に向けていろいろなところでご協力をいただいています。一番不安に思われているのは、小中両方の免許を持っていただくということを最初に打ち出してしまいましたので、どういう形をとるとスムーズに免許が取れるのかということ色々と考えていただき、夏休みの間にすでに中学校の免許を取ったという報告も受けています。前向きに先生方は取り組んでいただいていると思われれます。一方で、「授業があつてそういう時間を確保するのも難しい」というような意見もいただいていますので、その辺、何らかの対応策を取れたらと思っています。東能勢中学校・小学校については、来年から小中一貫校になりますので、いろいろ考えていただく内容が増えて、負担感があるのは否めません。その点は先生方とお話をしながら、事務局でできることは事務局でやっご提示をさせていただく。先生方でしていただかないと子ども達にとって良いものにならない部分は、少し担っていただかないといけないと思っているところです。

今のところ「心の病」でお休みになっているという報告は受けていませんが、ただ、報告を受けていないだけで、ひよっとすると少ししんどくなっている方はいらっしゃるかもしれません。そこまではちょっと詳しくは調べ切れておりません。

【議長】

そういうことを含めまして、部長、あるいは理事、課長でいろんなヒヤリングさせていただいて、状況を把握し、できるだけ、サポートができるような体制を取ってまいりたいと思っております。

【議長】

他にご意見、ご質問等はいかがでしょうか。

【委員】

採用の時に、例えば豊能町はもうすべて小中一貫教育となっていくので、小中の免許を持っている人を優先に配属していただけたらとか、そういうことってあるのかということを確認したかったのですけれども、豊能町のこの豊能地区はどうなっていますか。

【議長】

それは私のほうからこれをお答えさせていただきます。中核市とか大阪市とか堺市を除いて、地区で教員を採用しているのは、全国では豊能地区だけです。

豊能地区で教員を採用するため、教職員の人事権が10年前に大阪府から3市2町に移譲されました。全国でそういうシステムを作ったのは豊能地区だけです。10年経過しましたので、いろいろ振り返りを行っておりますが、最初の目的は、それぞれが小中一貫教育を進めていくこと。特色ある教育を進めていくこと。その中で、小中の両方の免許を持った人を採用していこうということが目的の一つでしたが、最初からハードルを高くすると応募人員が減る等、様々な課題がありました。私から豊能地区すべての市町で小中一貫教区を行い、義務教育学校をつくっていきますので、小中免許を持った人を優先して採用するような形を検討してほしいということをこれまでずっと言ってきました。そして、次年度の採用から検討をしていこうというようなことになっております。現在、小学校の先生で小中免許を持っておられる先生は、地区の中において大体5割。それは、豊能町も一緒です。中学校の先生で小学校の免許も持っている人は2.5割から3割ということですが、できるだけこれから両方の免許を取得する努力をしてほしいと先生方をお願いしております。

【委員】

こども園の視察に行ってくださいているみたいなのですが、行かれていますところには何か特徴的なことがあって「ここを選びました」というようなことがあるようでしたら教えていただきたい。

【子ども育成課長】

先ほどの報告の中でも、公私連携幼保連携型認定こども園ということをお伝えさせていただいたのですが、今のところお伺いしているのは公私連携になるところです。ここは民設民営ということで、民間がつくられて民間で運営するというこども園になるのですが、その民間の運営ではなくて、市町村と協定を結んでいろいろと「町としてはこういうことをしてもらいたい」というふうな協定が結べるというのが公私連携になります。いろんなところへ視察にお伺いさせていただいているのが、その公私連携型のところを

選択して視察に行っております。

【委員】

町バスの件ですが、東能勢中学校が行事で、防災教育で淡路島まで行っているというように聞きました。これから小規模になるおそれがあるし、1学級が40人のバスに乗れるのであれば、やっぱりそういう学習をするのに公共交通機関を使ったらすごくお金がかかる。学校にとっては大事だということをもう一回、覆るのかどうかわかりませんが、もう1回声を大にして言ってほしい。東ときわ台小学校も小学生が一庫公園まで歩いていくのは無理だと思う。小学校では、「自然観察学習」で毎年のように1年生と2年生が町バスをお借りしてやっているということも聞いている。やはり観光バスは費用がかかる。町バスならお金がかからないわけだから。

関係ない話ですが、町バスが我が家の前の角を曲がるのでよく見ると、福祉とか老人会とか学校ではない人とかもかなり使っているように思う。

そして今、豊能町が魅力ある町になるのにバスを持っているというのは、一つの利点だと思いますので、ぜひ町バスを存続させてほしい。

【議長】

“町バスが必要や”ということはずっと言ってきました。ただ、やはり財政が厳しいので、今回廃止するという話になり、それに代わる代替措置を町部局できちっと考えてほしい。

そういうお話を11月には、教育委員会議の後、町長・副町長と教育委員との懇談がありますので、しっかり意見交換をしていただきたいと思います。

【委員】

町バスの件はよくわかりましたので、今度しっかりとやらせてもらいます。

先生のこれからのことや小中一貫の進み具合について、東能勢の小中学校の連携が来年からスタートするので、5年生・6年生は先生も一緒に上がっていく。何人かは5年生・6年生に付いて中学校へ行くわけですから、現場の先生たちは『誰が行くねん?』ということ東能勢小学校、中学校で出てくると思う。教育委員会では、担当がおられるのだと思うので、その辺を丁寧にやっていくことが今必要なのではないかと考えている。小学校も中学校も具体的に“どうしたらいいか?”ということを知りたいと思う。具体的に来年運動会も一緒にするとか、決まっていることもある。もう半年ないがどのように現場の先生に伝えているのかというのを教えてください。

【保幼小中一貫教育推進室長】

来年度開校まで5か月わずかとなり、間近に迫ってきているところですが、富永委員

からまずお話がありました運動会につきましては、先生方と小学校、中学校、それからふたば園の先生も一緒に、今年、来年度開催の大枠を案として作っておくということで協議を進めております。

また、進めていく中で、次々と課題が出てくるのですけれども、その都度、例えば来年、中学校校舎では5年生から9年生で委員会・児童会・生徒会活動を一緒に行うということを考えているのですが、それについてはどこで話し合われるのか？という先生方のほうから話題をいただきましたので、またそれも近日中に担当者に集まっていただいて会議をするというような形で、課題が出てきたらそこからになりますが、先生方との会議をして、それをもとにまた管理職等どうしていくかという最終確認をするということで進めている段階です。

管理職・首席との会議は、大体10日から2週間に1回のペースで行っております。

【委員】

今、国のほうでもいわゆる、小学校の5年生、6年生の「教科担任制」ということを言っている。それと合わせて5年生と6年生が中学校に上がっていく、中学校に行く時に教科担任制にするのであれば、免許がなくても授業ができる。例えば理科の免許を持っていたら、小学5年生の理科の授業はできる。だからそのようなことで具体的な、例えば5年生6年生に上がったら5、6年は小学校から上がった先生だけではできないのではないかなと思います。そんなことが一番たぶん小学校から中学校へ行く先生のほうが心配・気になる。だから自分らだけで5年生6年生を見るのと違うよというのがたぶんお話をされていると思うのですけれども、やっぱり先生って、新しいことをすることはワクワクしているのではなくて、不安のほうが先生は多いような気がする。「GIGAスクール構想」がコロナで先にとにかく物を渡せみたいになった。本当は「GIGAスクール構想」はもう少し時間をかけてやるはずだったのに、国がパーンと持ってきたから教育委員会も現場も大変となっている。その上、豊能町は小中一貫にするわけだから、“こういうふうになるから安心してよ”ということ、教育委員会から指導してほしい。

【保幼小中一貫教育推進室長】

来年スタートをするにあたって、5年生・6年生を先に中学校へ移した時に、子ども達にとっても「中学校に早く行ってよかったなあ」ということと、先生方も、「あっ、こうしてよかったね」というふうに思えるようなことにならないといけないなど。そのような形になるように持っていけたらと思っています。

来年度、5年生と6年生を中学校校舎に移した時には、中学校的な教科担任制を考えております。つまり、ほぼ、中学校と同じように5年生・6年生も教科ごとに指導者を変えるということで考えています。

ただ、5年生・6年生から丸っきり中学校と同じようなことをすると、今度、4年生

と5年生のところで大きな段差ができてしまいますので、学級担任とのつながりも大事にするということで、国語は学級担任が授業をします。国語は毎日1時間授業がありますので、学級担任の授業が必ず1日に1時間は確保できるということと、あとは学級担任の先生はそれ以外に自分の専門の教科と道徳とか総合的な学習時間の授業を学年内で持つというようなことで、そのような形で進めると、現在の小学校に行きますとほぼ職員室に先生方がいらっしゃいません。つまり、空き時間がない状態なのですが、5年生と6年生が中学校のほうに居て中学校的な教科担任制が始まると、空き時間も先生方に確保ができて少しゆとりができるようになっていって、そのゆとりが子ども達に返っていくのではないかなと考えています。

【議長】

他にご意見、ご質問等はいかがでしょう。

【委員】

オレンジリボンキャンペーンの「感情コントロール法」について少しお教えいただきたい。私、実はこのかなり『怒り』ということについて、ある施設ですと皆さんにお話をさせていただいていたところで、ほとんどその怒りによって、その施設に入って来られた方が多くいらっしゃいますので、私もかなり勉強させていただいて、どうすれば怒りと上手いこと付き合っていったら良いかということでききご説明をさせていただいていますが、今回これにつきまして、やはり「児童虐待」という、そのような実例があったのかなということをお聞きしたいのと、今回この講演会の対象者は、その保護者の方とか、そういう方に対しての講演会かなということをお教えいただきたい。

【こども育成課長】

まず一つ目のご質問から。

特に実例があったというものではありません。ただ、『怒り』というのはおっしゃっているように他の人間に対して向かっていくもの。場合によっては自らにもありますけれども、そういう点から、やはり虐待防止につながるのではないかと担当のほうで考えてくれまして、今回このような講演をすることになりました。

対象の方はどなたに来ていただいても結構です。もしお時間等ご都合が付けばお電話を予めいただきたいのですが、まだ枠がありますので、どなたでも結構ですので、来ていただけたらと思います。

【議長】

他にご意見、ご質問等はいかがでしょう。

【委員】

来年度の4月から小中一貫になるのですか。

【議長】

まず来年度、東地区から小中一貫になります。

【委員】

子ども達への説明とかというのはされているのでしょうか。

【保幼小中一貫教育推進室長】

直接子ども達への説明は行っておりませんが、子ども達が読んで分かるようなリーフレットを作りまして、それを先日子ども達に配布をして、学校の先生のほうから説明をしていただきました。その説明を聞いて、また不安に思っていることとか、分からないことがあったら、アンケート用紙に書いてくださいということのお願いをしてアンケートが返ってきているところです。また、それについてはこちらから回答をしたいなと思っております。

【委員】

幼稚園・保育所のこども園に向けてのことと合わせて保幼小中としての一貫教育を考えているわけですから、保育所と幼稚園と小学校では、そういう話し合いは保育所の先生たちとかも管理職も含めてどういうふうにされているのかというのを教えてほしい。

【保幼小中一貫教育推進室長】

東地区の小中一貫校の学校教育目標を検討する時には、園長先生・副園長先生にもお越しをいただいて、小中の管理職とふたば園の管理職もともに協議をして決定をいたしました。小学校につきましては、来年1年生になる子と来年4年生になる子が兄弟学年として進められるように、今年度は年長さんと小学校3年生が「交流学习」を行っているというようなことを聞いております。

【議長】

この夏に保育所・幼稚園を小学校の先生と見学をして「どのような保育・教育をやっているか？」というようなことを見る機会、あるいは説明をしていただく会を設けたということです。

3所園で、さらにそこは「課題」だというようにとらえておりますので、これからも検討を進めてまいりたいと思っております。

【議長】

そうしましたら、私のほうから1点だけ。

- ・市町村オンライン協議会について

【議長】

他よろしいですか。ありがとうございました。

以上をもちまして、「令和3年度第7回豊能町教育委員会議（10月定例会）」を閉会させていただきます。

本日はお疲れ様でございました。

閉会：午後4時08分